鹿児島県立与論高等学校
校長通信
第10号（令和7年3月21日／校長 大倉秀心）

校訓「好学 創造 親和 不屈」
鹿児島県大島郡与論町茶花1234番地１
電話（0997）97-2064
FAX（0997）97-2844

大学入試総括

３月12日は国公立大学二次試験後期日程の日でした。本校からも１人，この日に最後の挑戦をした3年生がいました。そして見事，合格を勝ち取りました。できるだけ早く合格を手にして，残りの高校3年の生活を楽な気持ちで過ごしたいという思いから，努力せずとも合格できる進学先を早い日程の入試で決めようとする風潮が全国的に強くなっている中で，志望校のレベルを下げず，歯を食いしばって努力を続け，後期日程の試験に臨んだ受験生には敬意を表したいと思います。同時に，このように敢えて困難な道を選択し努力を継続できる力は，必ずや将来，本人の人生をバックアップする力になるということを確信しています。

本校令和6年度大学等合格状況

（過）は過年度（令和6年3月）卒業生を表します。

【国立大学】4名
・東京大学理科Ⅱ類（過）
・東京外国語大学国際社会学部
・鹿児島大学教育学部（過）
・琉球大学工学部

【公立大学】6名
・宮城大学事業構想学群
・高崎経済大学地域政策学部
・長野県立大学グローバルマネジメント学部
・周南公立大学経済経営学部
・名桜大学人間健康学部
・名桜大学国際学部

【私立大学】14名
・早稲田大学法学部（過）
・東京理科大学創造理工学部（過）
・駒澤大学グローバルメディアスタディーズ学部
・国士舘大学文学部
・創価大学経営学部
・大妻女子大学社会情報学部
・埼玉医科大学医学部医学科（過）
・龍谷大学文学部（過）
・九州産業大学商学部
・九州産業大学建築都市工学部
・福岡工業大学情報工学部
・中村学園大学教育学部
・長崎総合科学大学総合情報学部
・沖縄大学人文学部

【私立短大】4名
・大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
・大阪成蹊短期大学幼児教育学科
・鹿児島女子短期大学児童教育学科
・鹿児島女子短期大学児童教育学科

【専門学校】13名
・鯉淵学園農業栄養専門学校
・スポーツ健康医療専門学校
・福岡リゾート&スポーツ専門学校
・福岡リゾート&スポーツ専門学校
・ハリウッドワールド美容専門学校
・福岡ビジネスアカデミー専門学校
・福岡こども専門学校
・中村調理製菓専門学校
・鹿児島医療福祉専門学校
・鹿児島美容専門学校
・鹿児島医療技術専門学校
・KCS鹿児島情報専門学校
・沖縄統合医療学院

【就職】5名
・ANA FESTA株式会社
・陸上自衛隊 ・陸上自衛隊 ・陸上自衛隊 ・陸上自衛隊

進路先との「縁」

これまで何千人もの高校生の卒業を見届けてきました。第一志望に見事合格した者，第一志望ではないがそれまでの自分の懸命な努力に納得して進学した者，力が及ばなかった自分を奮い立たせ浪人を経

て前年度のリベンジを果たした者など，様々な生徒がいました。自分の進路先の合格を勝ち取るまでの過程は，当然のことながら生徒それぞれ違います。十人いれば十通りの，千人いれば千通りの進路ストーリーがあるのです。得意・不得意がそれぞれの生徒で違うのは当然で，性格や個性，希望や夢も異なるのですから，同じやり方，同じ考え方で誰もが進路を実現できるわけではないことは容易に理解できるでしょう。

しかし一つだけ，どの生徒にも共通することがあるのです。それは，次の進路に納得して進んでいく生徒は，必ず人知れず懸命な努力をしてきたという点です。彼らには，「これだけ努力をしてきたのだから，結果がどうであっても受け入れられる」という潔さがあります。ですので，例え第一志望が不合格であっても，第二志望に合格すれば納得してそこに進学できるのです。そのような生徒は，その進学先で更なる努力を続けられる自信があるのでしょう。そして，そのような人には自然と応援してくれるサポーターのような存在との出会いが起こり，次々と進路を切り開いていくのです。私が懸命な努力の末にたどり着いた進路の先に「縁」を感じるのはそのようなことが理由なのです。

かくいう私も，38年前大学入試を受験しました。国公私立合わせて5校受験しました。2勝3敗でした。今とは全く入試制度も違っていましたが，「合格しても行かない」と思うような大学には出願していなかったので，納得して2勝した大学の一つに進学しました。高校3年間，好きな英語には必ず毎日取り組み，受験を意識してからは，気づいたら平日6時間，休日13時間の学習をしていました。人間，慣れてしまえば人から驚かれるような努力も，さほど苦痛ではないこともその時学びました。そして，大学時代は様々なことに共感できる友人や，尊敬できる教授などとの出会いに恵まれ，その後の人生の方向性が自然に定まっていったように思います。このような人生を好転させるような出会いも，努力の結果たどり着いた場所だからこそ起こりうるのだと思います。そのようにして進学した大学にこそ「良縁」が待っているということなのでしょう。大した努力もせず，何となく進学した先には，そのような「良縁」はないのではないでしょうか。よっぽどの強運の持ち主でない限りは。

京セラの創業者，故・稲盛和夫さんは，日夜商品開発に臨む社員たちに，「神に祈ったか？」と聞いていたそうです。これは商品開発がうまくいきますようにとあらかじめ「神頼み」をしたかということではなく，もう後は「神頼み」するしかないくらい，考えられうるあらゆる手を使って努力をし尽くしたかということだそうです。何かをやり遂げるには，やはり努力が必要なのです。

「寄り道」の勧め

私の娘の大学入試でも「縁」を感じることがありました。娘が高3の7月の連休中に，彼女が第1志望の国立大学（ここではA大学とします）のオープンキャンパスがありました。その大学は東京にあり，彼女は東京に不慣れでしたので私が同行しました。オープンキャンパス前日に東京入りしたのですが，せっかく東京まで来たのだから，オープンキャンパスはなくてもA大学以外の大学にも寄り道しようということになり，移動可能な範囲内で，この連休中に5大学を訪問しました。休日でしたがキャンパスには学生が少なからずおり，大学ごとの学生の雰囲気は十分に感じることができました。キャンパスの立地場所や校舎のたたずまいなども大学によって全く印象が違いました。

娘は本命のA大学のオープンキャンパスも十二分に満喫し，この東京訪問に満足している様子でした。そこでは私は，「今回，A大学以外で訪問した5つの大学の中で，試験の方式とか難易度とかは全部無視して，このキャンパスで学んでみたいなと思った大学はどこ？」と聞いてみました。しばらく考えて彼女は，「うーん，〇〇大学（ここではB大学とします）かな」と，この時は何となくフィーリングで答えたようでした。

しかし，その後の進路学習で娘は，このB大学に自分の希望する学部が存在し，入試に関しては，合格しても入学を3月に辞退できるAO入試（現総合型入試）が11月末に実施されることを知ります。つまり，本命のA大学の受験機会は確保しつつ，B大学に挑戦できるわけです。一度訪れたことのある大学で，その雰囲気はよくわかっていたので，彼女は迷わずB大学のAO入試受験を決意します。AO入試の小論文・面接対策，一般入試の学力試験対策を同時並行で行うという困難な道を敢えて選んだのです。

結果，彼女はB大学には合格し，A大学には不合格でした。しかし，A大学合格を目指し，センター試験（現共通テスト）を受験し，二次試験まで努力を続けたことは彼女にとって大きな財産となったはずです。B大学での出会いにも恵まれ，現在社会人として独り立ちしていますが，全国に就職していった大学時代の友人と今でも交流を続け，お互いを高め合っているようです。彼女にとってはこの大学が行くべき大学だったのでしょう。これは本命を目指す途中の「寄り道」がもたらしてくれた「縁」なのではないかと思うのです。やはり，努力を続けていれば，ひょんなところに「良縁」が隠れているような気がしてなりません。